経鼻投与型、インフルエンザ生ワクチン

知っておくべきこと

2004～2005年度

1 予防接種が必要な理由とは?

インフルエンザ(「流感」)は重篤な病気です。

感染した人から他の人の鼻または喉に伝染する細菌が原因となります。

インフルエンザは以下の症状の原因となることがあります。

- 発熱
- 咽頭炎
- 悪寒
- 咳
- 頭痛
- 筋肉痛

誰でもインフルエンザにかかる可能性があります。2、3日間だけ病気になる人が大半ですが、悪化して入院が必要となる人もあります。米国内では毎年平均3万6千人がインフルエンザにより死亡し、その大半は高齢者です。

インフルエンザワクチンはインフルエンザを予防できます。

2 経鼻投与型インフルエンザ生ワクチン

現在、不活化ワクチンおよび生ワクチンの2種類のインフルエンザワクチンがあります。

2003年に経鼻投与型インフルエンザ生ワクチン(商標名FluMist™)が許可されました。FluMistには弱毒化(弱体化)インフルエンザ生ウイルスが含まれています。これは筋肉注射ではなく、鼻孔へのスプレーです。

不活化インフルエンザワクチンは注射で投与され「flu shot(流感予防注射)」とも呼ばれ、長年使用されてきました。これには死んだインフルエンザウイルスが含まれます。

3 経鼻投与型インフルエンザ生ワクチンを受けられる人は?

経鼻投与型インフルエンザ生ワクチンは、インフルエンザ合併症の高リスクのある人の家族を含む、5～49歳までの健康な子供と大人のために承認されています。しかし、FluMistは、いくつかの病状のある人、妊婦、またはインフルエンザに関係する合併症のリスクのあるその他の人に使用すべきではありません(第4項を参照)。

4 インフルエンザ生ワクチン経鼻投与を受けるべきでない人とは?

下記の人はインフルエンザ生ワクチン経鼻投与を受けるべきではありません。**不活化インフルエンザワクチン**の接種については医療提供者に相談してください。

- **50歳以上の大人または5歳未満の子供。**
- 以下の疾患を持つ**長期的な健康上の問題**のある人:
  - 心臓疾患
  - 肺疾患
  - 喘息
  - 腎臓疾患
  - 糖尿病などの代謝性疾患
  - 貧血症、および他の血液疾患
- 以下の理由により**免疫系**の弱った人:
  - HIV/AIDSまたは免疫系に影響する他の疾患
  - ステロイドなどの薬剤での長期治療
  - X線または薬剤でのがん治療
- **長期アスピリン療法**を受けている子供または思春期の若者(これらの人々はインフルエンザにかかるとライ症候群を発症する可能性があります。)
- **妊婦。**
- ギラン・バレー症候群(Guillain-Barré Syndrome, GBS)の病歴のある人。

医師、看護婦、家族、または**極度に免疫系の弱った人**(保護された環境での医療を必要とする人)と**身近に接触する人**は、インフルエンザ生ワクチン経鼻投与よりもインフルエンザ(不活化ワクチン)注射の方が好ましいです。

下記の人は、**いずれかの**インフルエンザワクチンの接種を受ける前に、医師にご相談ください。

- **卵または以前のインフルエンザワクチン接種に重篤なアレルギー反応を生じた人。**
- 接種予定時に発熱または重病の場合、回復するのを待ってから予防接種を受けてください。予防接種の予定を変更すべきかを医師または看護婦とご相談ください。

5 予防接種の接種時期とは?

最良のインフルエンザワクチン接種時期は10月または11月です。流行時期は12月から3月の間にピークに達することがありますが、大半は2月にピークに達します。ですから12月またはそれ以降に接種すると、一年の大半において有益である可能性があります。

インフルエンザの予防に毎年1回だけの接種が必要な人が大半です。しかし初めて接種する9歳未満の子供は2回接種が必要です。インフルエンザ生ワクチンの接種は6〜10週間間隔で実施されるべきです。これらの子供は最初の接種を10月以前に受けるべきです。前年で1回接種したこの年齢のグループに属する子供は、その接種を受けたのが初回であっても、今年は1回だけ接種が必要です。

インフルエンザ生ワクチン経鼻投与は他のワクチンと同じときに受けられます。これにはMMR (はしか、おたふく風邪、風疹の3種混合)または水痘など、他の生ワクチンも含まれます。しかし、2種の生ワクチンが同じ日に投与されなかった場合、最低4週間間隔でそれらの接種を受けるべきです。

インフルエンザウイルスは頻繁に変わります。ですから毎年インフルエンザワクチンは更新され、毎年接種が必要となります。

6 インフルエンザ生ワクチン経鼻投与に関係するリスクとは?

あらゆる薬剤と同様に、ワクチンは激しいアレルギー反応など重篤な問題の原因となる恐れがあります。ワクチンが重篤な害または死亡の原因となる危険性は極めて低いです。

インフルエンザ生ワクチンのウイルスが人から人に伝染する可能性は非常に低いです。万一そのような伝染が発生した場合でも、病気の原因となる可能性は低いです。

インフルエンザ生ワクチン経鼻投与を受けた人は軽い症状を生じる可能性があります(下記参照)。

軽い症状:
5〜17歳の子供や思春期の若者の一部で下記を含む軽い反応を報告した人がいます。
- 鼻水、鼻詰まり、または咳
- 発熱
- 頭痛および筋肉痛
- 腹痛または時々の吐気や下痢

18〜49歳の大人の一部で下記の症状を報告した人がいます。
- 鼻水または鼻詰まり
- 咽頭痛
- 咳、悪寒、倦怠感/脱力感
- 頭痛

これらの症状は長続きせず、自然に治りました。接種後これらの症状が生じた場合でも、接種が原因でないこともあります。

重度の症状:
- ワクチンによる致命的なアレルギー反応は非常に稀です。起こるとすれば、接種後数分から数時間の間に生じます。
- 新しい製品で稀な反応が生じる場合、何千人、何百万人の人が製品を使用するまでそれらの反応を特定できません。あらゆる接種と同じように、異常または重度の問題がないかどうか経鼻投与型インフルエンザ生ワクチンは常に監視されています。

7 中程度から重度の反応があった場合はどうしますか?

気を付けることとは?
- 高熱または普通でない様子など、平常でない状態に気を付けてください。重篤なアレルギー反応の徴候には、呼吸困難、声がれ、喘鳴、じんま疹、青ざめ、脱力感、動悸、またはめまいが含まれることがあります。

どの様に対応すれば良いでしょうか?
- 医師に連絡するか、症状のある人を直ちに医師に連れて行ってください。
- 症状、発症した日時、予防接種を受けた日を医師に知らせてください。
- Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医師、看護婦または保健所に要請してください。

  ご自身でwww.vaers.orgのVAERSウェブサイトからこの報告を提出するか、1-800-822-7967 (米国内ファイルダイヤル)に電話してください。

  VAERSは医療上の助言はいたしません。

8 もっと詳細を知りたいのですが?

- 接種提供者にお尋ねください。医師か看護婦から予防接種の添付説明書を受け取ったり、その他の情報源を入手できます。 1-888-767-4687
- 地元または州の保健所にお電話ください。
- 以下のCenters for Disease Control and Prevention (CDC: 疾患管理予防センター)にご連絡ください。
  - **Call 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)**
  - CDCウェブサイト **www.cdc.gov/ncidod/diseases/flu/fluvirus.htm**または **www.cdc.gov/nip**をご覧ください。

CDC

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES
CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION
NATIONAL IMMUNIZATION PROGRAM

DCH-1237J
AUTH: P.H.S., Act 42, Sect. 2126.

Vaccine Information Statement
Live, Intranasal Influenza Vaccine IMM-778 - Japanese (5/24/04)
Translated by Transcend, Davis, CA
www.transcend.net

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報は Michigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。